

先輩からのメッセージ

いのうえ ひで あき
井上 英明

職業安定局 総務課
人道調査室長・
ハローワークサービス推進室長



平成6年	入省
平成15年	東京労働局 職業安定部 職業安定課長 ハローワーク品川の開設準備(港所・五反田所の再編)を担当
平成22年	職業能力開発局 能力開発課 課長補佐 公的職業訓練や訓練指導員養成の企画立案業務を担当
平成25年	千葉労働局 職業安定部長 県内ハローワークの業務指導、千葉県・市との連携事業を担当
令和2年	職業安定局 需給調整事業課 主任中央需給調整事業指導官 民間人材ビジネスに対する指導監督業務の総括を担当
令和3年	現職

志望理由

学生時代は「社会に貢献できる仕事がしたい」と漠然と考える中、産業心理学の教授が労働省心理職OBであり、心理学を活かせる就職先として当時の労働省(現在の厚生労働省)を紹介されたことが最初のきっかけです。官庁訪問し、職員の方から業務説明を受ける中で、働くイメージが具体化され、人生の長い時間を過ごすことになる「仕事」に関する政策づくりへの関心が深まり、入省を決めたことを覚えています。

現在の職務内容

ハローワークでは、求職と求人とのマッチングや雇用保険の加入・支給手続など窓口サービスを提供しています。雇用失業情勢や利用者ニーズの変化に応じ、サービスの提供手法や重点の置き方も変わります。現職では、デジタル技術の進展に伴うハローワーク業務・システムの見直しの総括業務や、サービス満足度調査や職員による「業務改善コンクール」の開催など窓口サービスの改善業務を担当しています。

最も印象深かった業務

能力開発課在籍時に、東日本大震災が発生し、訓練施設も甚大な被害を受けました。施設整備補助金の国庫負担率引上げの政令改正や訓練定員枠の拡大の補正予算など緊急対策を講じていましたが、震災発生 of 2か月後に沿岸部の被災地を訪問すると、現場の方から復興に向けて建設重機が扱える人材が必要になるものの、いくら予算があっても訓練拠点が少ないという話もあり、その後、地域の広域連携による合宿型訓練コースの開設につながりました。改めて、政策を考える上では現場実態の把握の重要性を認識した印象に残る仕事のひとつです。

受験生へのメッセージ



厚生労働省には様々な職種で採用された職員がありますが、活躍するフィールドは違っても「国民が安心して一生を送ることができる社会」を目指すという想いは共通しています。皆さんが就職先を選ぶ時の基準や仕事に対する価値観には色々あると思いますが、こうした想いに共感できる方にはやりがいのある職場であると思います。当省に関心を持った方々の訪問をお待ちしています。

平成12年 入省

平成17年	職業安定局 高齢・障害者雇用対策部 高齢者雇用対策課 調整係長 高年齢者雇用安定法の65歳までの雇用確保措置(努力義務(当時))の施行
平成22年	職業安定局 雇用開発課 雇用調整助成金担当 雇用調整助成金の不正受給への対応
平成27年	職業安定局 障害者雇用対策課 地域就労支援室 室長補佐 ジョブコーチ制度、発達障害や難病の方の就職支援などを担当
平成29年	独立行政法人労働政策研究・研修機構 キャリア支援部門 主任研究員 厚生労働省編職業分類の改定に係る研究を実施
令和3年	現職

志望理由

父は仕事人間、母は専業主婦という家庭に育ちました。両親にとっては合理的な役割分担だったのだと思いますが、学生の頃はいろいろと思うところがあり、自分は家庭を持っても働きたいと考えていました。厚生労働省を選んだのは、官庁訪問のときの印象が良かったことなどに加え、さまざまな形で「働く」ことにに関わり、「働く」人を応援できる仕事であるというのが決め手でした。

現在の職務内容

「職業情報提供サイト(日本版O-NET)」(愛称:job tag(じょぶたぐ))を担当しています。"job tag"は約500の職業について、「タスク」(仕事の内容を細かく分解したもの、作業)、「スキル」(仕事をするのに必要な技術・技能)等の観点から職業情報を「見える化」し、就職活動等を支援するサイトです。実際に働いている方の動画や適職探索機能なども搭載しています。多くの方に使っていただけるよう、サイトの改修や広報、活用促進のための検討などを行っています。



業務をする上で求められる能力

宣伝も兼ねてご紹介しますと、「job tag」では、「国家公務員」に求められるスキルは、1 文章力、2 読解力&説明力、3 他者との調整となっており、実際にそういったスキルは重要だと感じます。また、私自身は、仕事に対する姿勢として、誠実さや柔軟さを大切にしています。厚生労働省本省内の関係者はもちろん、労働局やハローワーク、他省庁や民間の方など、多くの方と関わる仕事なので、誠実に仕事をして信頼関係を築くこと、そして、いろいろな意見を聞き、柔軟に着地点を見つけていくことが大切です。また、それがやりがいや面白さにつながると考えています。

就職活動は、大変だと感じることも多いと思いますが、さまざまな組織や職業の方と話ができる貴重な機会であり、特に厚生労働省では、その経験が入省後にきっと役に立つはずですよ。前向きにいろいろ吸収してください。そして、ご縁がありましたら、一緒にお仕事ができることを楽しみにしています！

にしうら のぞみ
西浦 希

職業安定局 総務課
首席職業指導官室 課長補佐



1日のスケジュール

10:00	登庁
10:00	委託事業者との調整 job tagのサイトの運営には、サイトの運用・保守委託事業者、写真動画制作・広報等委託事業者など、多くの民間会社の方が関係しており、毎日、さまざまな確認依頼や相談のメールがきます。円滑に事業を実施してもらうため、迅速・的確に判断し、厚生労働省の考え方を丁寧に説明します。
11:30	昼食
12:00	(独)労働政策研究・研修機構の研究会に出席 job tagで掲載している職業解説や数値情報は(独)労働政策研究・研修機構(JILPT)で調査やヒアリングを行って収集しています。JILPTの研究会には厚生労働省の立場として出席し、関係者と議論をして調査の進め方などの決定に関わっていきます。
14:00	調達仕様書の作成 委託事業者の選定の入札に必要な調達仕様書を作成します。システム関係の専門用語なども勉強しつつ、契約時にトラブルが生じないように、できるだけ詳細に内容を検討します。
16:00	連携する別サイトの担当者等との打ち合わせ job tagが連携を予定している文部科学省のリカレント関係のサイトの担当者と打ち合わせをします。システムについての専門的な話になるため、それぞれの委託事業者の方にも同席してもらい、実際の連携にあたって問題が起きないように、システムの連携方法やテスト等の実施スケジュールなどを細かく決めていきます。
18:45	退庁

受験生へのメッセージ



先輩からのメッセージ

かわさき まさひろ
河崎 将大

子ども家庭局 家庭福祉課
(併)内閣官房 こども家庭庁
設立準備室 主査



志望理由

元々は教員を目指していましたが、大学時代に様々な困難を抱えることもやその保護者と関わった経験から、目の前のこどもだけに关わるのではなく、多くの人のキャリアの課題に寄り添いながら、困難を抱えていたとしても安心して暮らせる社会づくりをしたいと思うようになりました。そのような仕事に熱意を持った同僚達と携わることができる場所を考えた末、行き着いたのが厚生労働省でした。

現在の職務内容

親がおらず里親の元や児童養護施設で過ごすこどもや、ひとり親家庭などの支援に関する施策を担っています。施策を実行する手段は、法令を整備することに加え、自治体が行う事業の構想設計、税制措置など様々で、現在はそうした家庭福祉課の企画立案や総合調整を担当しています。その他、こども家庭庁の設立に向けた法令の整備や、こどもに関わる今後の施策の立案に向けた検討も進めています。

ワークライフバランス

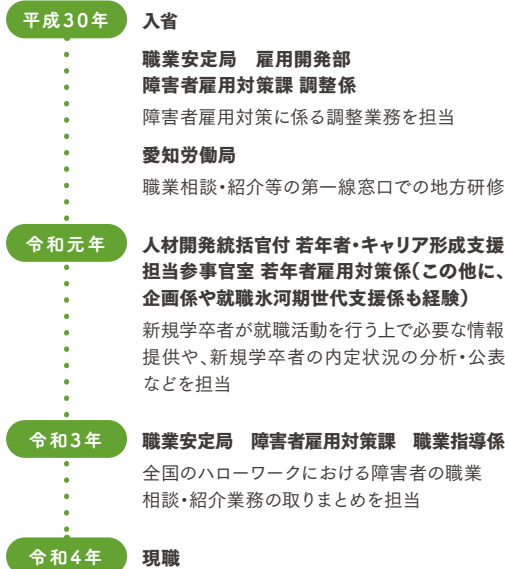
やむを得ず長時間勤務になることもある仕事なので、テレワークなどを活用して疲れを持ち越さないことはもちろん、生活との切り替えのために2点意識しています。

1つは日頃から同僚とこまめに情報共有すること。休み時にはお互いフォローできるよう情報共有しておくことで、その期間は自分の趣味などの時間に没頭することができます。もう一つは業務と全く関係のない分野に触れること。業務に関係ない映画をみたり、資格の勉強をしたりすることで、リフレッシュにつながりますし、その知識が仕事で生かされ円滑に進む場面も多くもあります。

受験生へのメッセージ



厚生労働省が担う業務は国民生活に直結するものばかりで、それ故に時に厳しい目を向けられることもあると思います。入省してから想像以上に複雑な状況を知り、困難に直面し苦勞することもあるでしょう。しかし、同時にその苦勞により一歩でも半歩でも制度を前進させることができるというのがこの仕事の魅力でもあります。是非厚生労働省の職員と話をし、そうした魅力を生で感じていただきたいと思います。



志望理由

学生の頃、「大学や社会は、まるで『ロケット型の押し出し鉛筆』のようだ」、そう感じていました。働く準備が出来ていなくても、4年経てば自動的に社会へ押し出され、ひとたび新卒で入社すれば、先から押し出されるまで順送りの鉛筆の中。「新卒至上主義をどうにかしたい」「社会に出た後も、学び直しや前向きな転職に寛容な社会にしていきたい」、そんな思いが溢れ、気付けば厚生労働省の門戸を叩いていました。

現在の職務内容

有期雇用労働者や短時間労働者、派遣労働者といった、いわゆる非正規雇用労働者の企業内でのキャリアアップ(正社員化や処遇の改善)に取り組みようとする事業主に助成を行う「キャリアアップ助成金」について、制度の企画立案や運営業務を主に担当しています。コロナ禍においても申請件数は増加しており、期待の高さと責任の重さを実感しながら、日々業務に邁進しています。

入省してよかったと思えること

本省においては、直接的に誰かから「ありがとう」や「助かったよ」という言葉をいただく機会は、決して多いとは言えません。ただ、労働局から、ハローワークの就職件数などの実績報告があり、件数が伸びていることを確認できたとき、「ありがとう」や「助かったよ」という言葉が、間接的(半ば想像)ではありますが、第一線の現場から聞こえてくるような気がします。その時に、「誰かの役に立っている、入省して良かった」と強く感じます。

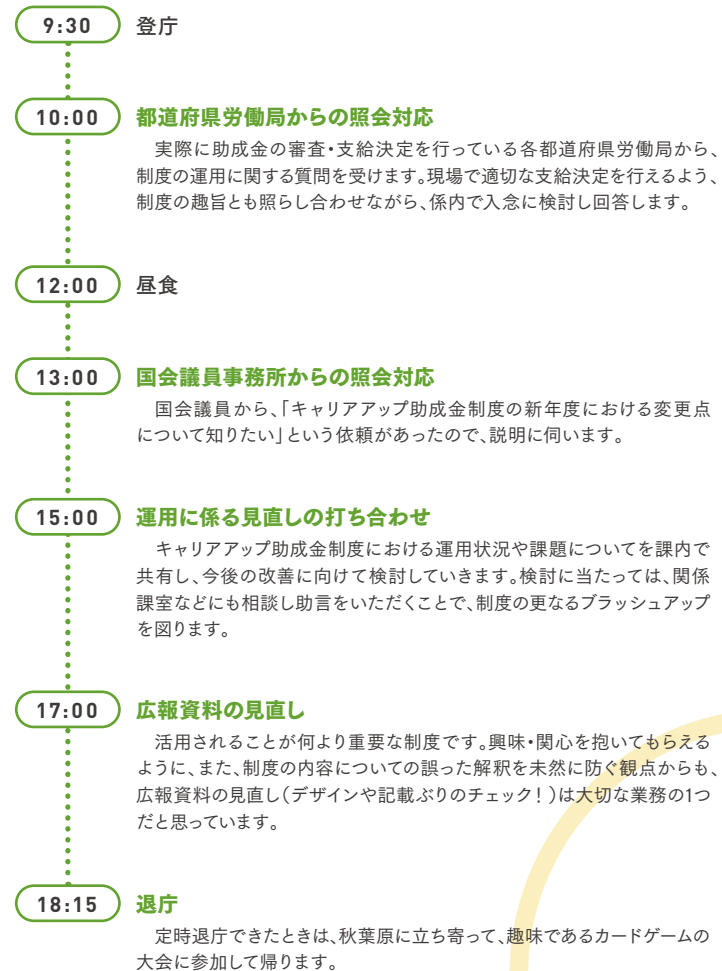
まず、いわゆる「ガクチカ」や「(人間科学職としての)専門性」が大切です。学生の時に頑張ったその経験や培った知識は、社会に出た後も必ずあなたの『武器』になってくれます。同様に、漠然とでもいいので、「この世の中を良くしたい!」という熱い気持ちを持つことも大切で、それがあなたの武器を使いこなすための『原動力』になってくれます。皆さんには、ぜひ、この経験・知識と熱い気持ちの2つともを養っていただきたいです。

そえじま かず ま
副島 一真

雇用環境・均等局
有期・短時間労働課
雇用対策係長



1日のスケジュール



受験生へのメッセージ

